



2. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 公立病院としての役割の発揮と責務の遂行

(1) 救急医療への対応・・・**[4]**

- ・圏域全体として救急搬送件数が低下したことに伴い、当院への救急搬送件数も昨年度から減少したものの、心臓血管センター、周産母子センター、こどもセンターでは、24 時間 365 日の救急受入体制を維持し、高度な急性期医療を担った。一方で処理能力を超える救急要請に対して受入れを見合わせるケースが発生し、不応率は 15.8%となった。
- ・地域の医療機関と協議を行い、今年度より新たに3つの医療機関から同意を得て、16 の医療機関と連携し、ドクターカーによる早期の下り搬送を実現し、地域全体で、よりスムーズな救急受入体制を整備した。

(2) 災害時における機能の強化・・・**[4]**

- ・災害支援ナースへの登録看護師が昨年度から増加し、地域災害拠点病院として体制の充実を図った。また、兵庫県合同防災訓練、DMAT 近畿地方ブロック訓練など、大規模地震を想定した訓練に参加した。
- ・BCP 策定後初めての改訂を行い、災害レベルを4段階に定義し、各レベルに応じた対応を明記するなど、災害時の対応力向上を図った。

(3) 感染症対策の強化・・・**[4]**

- ・新興感染症への備えとして、兵庫県と締結した医療措置協定に基づき、体制維持を図った。
- ・高齢者施設への研修や相談介入を行い、地域の医療機関や高齢者施設に対する感染症対策を推進した。

(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮・・・**[5]**

- ・外来機能報告制度に対応し、急性期治療終了から速やかにかかりつけ医に逆紹介する方針を明確にし、紹介受診重点医療機関としての役割を発揮した。
- ・地域連携セミナーを開催し、医療機関・後方連携機関と顔の見える関係を引続き維持するとともに、入院前から退院後の在宅療養までの連携体制強化を図り、地域の中核病院としての役割を果たした。

2 高度・専門医療の提供

(1) がん医療の充実・・・**[4]**

- ・がん集学的治療センターが中心となり、国指定の地域がん診療連携拠点病院として、高度かつ低侵襲な手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケア、がん相談など、専門治療や患者ケアを推進したほか、地域医療機関と連携したがん治療のセミナーや研究会を開催するなど地域を含めた教育面も精力的に活動を行った。
- ・患者同士の交流の場としてのがんサロンにおいては、新たに乳がんサロン、AYA サロンを試験的に開催し、同じ悩みを共有できる場として参加者から高い満足度を得られた。
- ・外来化学療法の件数の増加により待ち時間増加したため、通院治療室の改修を行い、3ブースを増設した。

(2) 循環器疾患にかかる医療の充実・・・**[4]**

- ・24 時間 365 日体制で急性期循環器症例の受入や、脳卒中の救急医療体制の確立へ向けた取組、低侵襲治療の拡大、循環器領域への緩和ケアの導入など地域の心臓血管センターとしての役割を果たした。
- ・他の医療機関では対応困難な腎不全、心不全など合併症を伴う脳卒中患者の対応を継続して実施した。

(3) 消化器疾患にかかる医療の充実・・・**[4]**

- ・総合的な診療体制により、出血を伴う消化管急性疾患や、胆管炎、胆道閉塞などの急性疾患に対する緊急内視鏡治療に対応し、地域の救急医療をカバーしている。
- ・直腸、胃、結腸に加え、肝臓、すい臓、食道に対する手術支援ロボット(ダヴィンチ)の適用を開始し、ほぼすべての消化器がんに対応できる体制が整備できた。

(4) 周産期医療の充実・・・**[4]**

- ・地域周産期母子医療センターとして地域の三次救急の役割を担い、24 時間 365 日ハイリスク妊産婦をはじめ緊急性の高い母体、新生児救急症例の受入を行った。
- ・日本医学会出生前検査認証制度等運営委員会の NIPT 基幹施設の認定を受け、ゲノム医療提供体制を強化した。

(5) 小児医療の充実・・・**[4]**

- ・小児地域医療センターとして、24 時間 365 日の救急受入体制を堅持した。
- ・小児神経、アレルギー、小児腎臓などの専門医が在籍し、様々な専門外来を実施した。特に気道評価は圏域を超えた広範囲からの患者に対応し、増加傾向にある。

(6) センター診療機能の更なる充実・・・**[4]**

- ・呼吸器センターでは、がん化学療法において、術前・術後の適用拡大がされ、呼吸器内科・呼吸器外科の連携を一層強化することで、センターとしての機能を充実させた。

(7) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・**[5]**

- ・集中治療室では早期離床のためのリハビリテーションを行ったほか、専任の管理栄養士を配置し、集中治療の初期段階から栄養介入を行い、早期退院や退院後の QOL 向上に係る体制を維持した。（**総合診療体制の強化**）
- ・昨年度増室した手術室2室の利用を進め、小児循環器内科の検査や血管内治療を全身麻酔で実施できる体制を整備した。また、新たに遺伝性腫瘍外来を設置し、がん発症者のみではなく、血縁者を含めた健康管理や遺伝カウンセリングを実施できる体制を整備した。（**高度・専門医療の提供**）
- ・看護外来は 13 看護外来を運用し、多職種と連携しながら在宅療養支援を行った。（**チーム医療の推進**）

(8) 高度・専門医療を提供する人材の確保と育成・・・**[5]**

- ・幅広い診療科目を有する急性期総合病院として、様々な症例経験やトレーニング機器を用いた実習、離島を含めた地域医療研修など多様な研修プログラムを用意し、学べる病院としての機能を発揮した。また、卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定を受けた研修施設として臨床研修体制を維持した。
- ・特定行為認定研修施設として、様々なシーンで安全に特定行為が実施できる看護師を育成することを目的として 10 区分 24 行為の研修を実施した。2025 年度は当院の 2 名が研修を修了したほか、区分別の研修修了者は延べ 22 名が研修を修了した。

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全管理及び感染対策の徹底・・・**[4]**

- ・これまでインシデント報告が少なかった診療部において、リスクマネージャーを設置し、インシデント報告の徹底と事案の共有及び再発防止に努めた。
- ・病理細胞診、組織診、内視鏡レポートに対するパニックアラート運用に加えて、放射線、内視鏡、一般検体検査、心電図、超音波等、多岐に渡る部門検査の未読結果・レポートを通知する既読管理システムの適正な監視体制を継続し、見落とし防止を図った。

(2) 患者とともに進める医療の推進とサービスの充実・・・**[4]**

- ・入院時重症患者対応メディエーターの配置や、社会保険労務士による療養・就労両立支援など、患者に寄り添い、患者の意思決定を支援する体制を維持した。

3. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自律性・機動性・透明性の高い組織運営

(1) 効率的・効果的な組織運営・・・**[4]**

- ・部門別稼働状況や重要情報を共有する運営協議会の月次開催を継続したほか、稼働状況など各種経営指標を日計で表示し全職員に公開することで、職員の経営参画意識を醸成している。
- ・公式 LINE でのタイムリーな情報発信を継続し、より多くの方に情報が届くよう務めた。

(2) コンプライアンスの徹底・・・**[4]**

- ・パワハラに関するアンケート実施による実態把握や、研修などによる個人情報保護や職員倫理に関する理解の深化、様々な情報セキュリティ対策の実施など、コンプライアンスの徹底を図った。

2 働きやすく、やりがいのある職場づくり

(1) やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実・・・**[4]**

- ・システミックコーチングにより、風通しの良い組織風土が定着しつつある。また、半期ごとの所属長による評価面談の機会を通して、職員が設定した目標とその達成状況を振り返ることで、成果の承認や課題の認識によって職員自身の成長を促した。
- ・職員満足度調査を継続し、職員ニーズの変化の把握に努めた。

(2) 働き方改革の推進・・・**[4]**

- ・労働および労働以外の時間区分のモニタリングシステムを活用し、管理者が適宜指示調整を行い、変則労働時間の設定やシフト勤務を活用しながら時間外勤務の削除等の取組を進めた結果、働き方改革制度の施行に対し、すべての診療科で承認された基準に対し、逸脱はなかった。

4. 財務内容の改善に関する事項

1 経営基盤の強化・・・**[5]**

- ・人口推計やDPC データを用いた将来受療予測を行い、働き方改革を踏まえた人員配置計画や地域連携活動に活用した。
- ・病院経営に影響する様々な指標を院内開発のBIシステムによってタイムリーにモニタリングし、経営課題を的確に把握することで、迅速な対応を実現している。
- ・物価高騰や賃金上昇などの影響により費用が上昇する中、光熱費契約や医療材料の採用見直しなどを行った。

2 収益の確保及び費用の最適化・・・**[4]**

- ・診療報酬の査定減点の詳細な分析を行い、委員会で検討した。内容は各診療科にフィードバックし、要注意項目に対して医師と事務が協力して対策を行った。
- ・BIシステムによる各種経営指標モニタリングを病院全体に共有し、諸課題に対して迅速に対応した。
- ・コスト削減プロジェクトを継続し、病院全体でコスト削減を意識した取組を進めた。

5. その他業務運営に関する重要事項

1 地域社会への貢献

(1) 地域社会との協働の推進・・・**[4]**

- ・地域住民に向けた健康教室を開催し、健康促進や病院と地域とのコミュニケーションの場を提供した。
- ・看護の日イベント、病院フェスタを再開し地域住民との交流を図った。
- ・加古川市のスポーツイベントへ医師や看護師の派遣を行うなど、様々なイベントへの参加を行った。

(2) 市施策への協力・・・**[4]**

- ・加古川市養護学校の修学旅行へ小児科医師、看護師が同行した。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指 標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	8,500	7,733	91.0%
救急車受入要請に対する不応率	10.0	15.8	93.6%
人間ドック受診者数	3,000	3,088	102.9%
紹介率	77.0	78.8	102.3%
逆紹介率	95.0	95.7	100.8%
がん登録件数	2,500	2,260	90.4%
悪性腫瘍手術件数	1,800	1,630	90.6%
放射線治療計画件数	430	474	110.2%
化学療法件数	16,000	16,436	102.7%
緩和ケアチーム介入件数	220	283	128.6%
冠動脈インターベンション件数	450	458	101.8%
アブレーション件数	390	402	103.1%
デバイス治療件数	230	245	106.5%
末梢血管インターベンション件数	120	70	58.3%
開心術・心血管手術件数	250	329	131.6%
心臓リハビリテーション単位数	31,600	33,946	107.4%
上部内視鏡検査件数	9,000	8,849	98.3%
下部内視鏡検査件数	4,350	4,563	104.9%
内視鏡的粘膜切除術(EMR)件数	580	605	104.3%
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数	140	128	91.4%
分娩件数	800	797	99.6%
ハイリスク分娩件数	170	152	89.4%
小児救急搬送受入件数	2,000	1,599	80.0%
手術件数	9,500	9,374	98.7%
MR I 件数	23,750	24,784	104.4%
C T 件数	62,300	71,928	115.5%
P E T－C T 件数	2,260	2,151	95.2%
クリニカルパス使用率	65.0	69.0	106.2%
医師数(専門医研修医及び初期臨床研修医を除く。)	177	179	101.1%
専門医研修医数(専攻医)	81	79	97.5%
初期臨床研修医数	34	34	100.0%
患者満足度/入院	95.0	96.0	101.1%
患者満足度/外来	85.0	87.1	102.5%
職員満足度(%)	70.0	73.3	104.7%
累積経常利益(百万円)	16,963	17,724	104.5%
経常収支比率	100.0	101.6	101.6%
医業収支比率	101.2	101.7	100.5%
医業収益(百万円)	28,808	29,495	102.4%
入院収益(百万円)	18,626	18,994	102.0%
外来収益(百万円)	9,605	9,914	103.2%
入院診療単価(円)	94,500	97,630	103.3%
外来診療単価(円)	25,500	27,172	106.6%
1日あたり入院患者数	540	533	98.7%
1日あたり外来患者数	1,550	1,508	97.3%
病床稼働率	90.0	88.8	98.7%
給与費比率/対医業収益	44.7	45.6	98.0%
診療材料費比率	16.2	16.1	100.6%
医薬品費比率	16.6	18.2	91.2%
経費比率/対医業収益	14.1	13.6	103.7%